

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年4月1日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103417
法人名	社会医療法人 天陽会
事業所名	グループホームさくらじま
所在地	鹿児島市野尻町49番地1号 (電話) 099-245-0818
自己評価作成日	令和3年12月14日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和4年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設場所には広大な敷地があるため、鹿児島市内でも珍しい平屋作りのグループホームです。共同スペースのリビングも広々としており、車椅子の対応も十分に行えます。桜島病院に隣接していることから、定期受診や急な特診等にも迅速に対応できます。また、看護師による定期的な利用者様の健康チェックや作業療法士と共同で生活機能向上にも努めております。医療機関等との連携が充実している為、利用者様、そしてそのご家族も安心して生活することができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは鹿児島市桜島にあり、桜島埠頭から車で約5分ほどの場所に母体医療機関・通所リハビリテーション・居宅介護支援事業所と共に平成15年に建てられている。ホームは2ユニットが隣り合わせで正対称になっており、周囲には花壇や木々が茂り、海の音も聞こえて自然豊かな環境である。母体医療機関をはじめ法人内の連携は緊密で、24時間連携体制が構築されているため、家族からの信頼も厚い。

母体医療機関には接遇、感染対策、防災の3つの委員会組織があり、ホームには広報・設営、環境美化、教育・研修、管理、企画の5つの委員会を設置して、お互いに連携を取りながら連絡・報告を行っている。ホーム内には理念と共に接遇目標を掲示し、職員は共通認識を図りながら支援に努めている。

職員は、家族や地域との絆を大切に毎日を楽しみながら過ごしてもらえるように、思いやりの姿勢で利用者中心のケアに努めることを目指して支援に取り組んでいる。管理者は職員と普段から何でも話せる雰囲気作りに努め、地元の職員が多いため離職率も低く、働きやすい職場環境となっている。

当地域は火山噴火による被害や地震・津波等の災害の危険性が高く、鹿児島市主催により火山爆発に対する桜島全域の防災訓練が行われている。ホームからも利用者と職員が参加することにより、防災への意識を高め、地域や家族との協力関係が構築されている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員は、朝の申し送り前に理念を唱和し、職員間で理念を共有し、日頃の勤務において実践に繋げている	地域性を大事にする生活を目指した理念をホール・事務室に掲示し、広報誌・パンフレットにも掲載している。職員は理念を意識したケアに取り組んでおり、管理者は年2回の面談等で理念の共有とケアの実践について確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームで交流会を開いたり、地域主催の行事等に参加していたが、コロナで現実実施できていない	例年は地域の行事やイベントに参加したり、養護学校の子供達との交流やボランティア受入れ等を行い、地域との交流を図っているが、併設のデイケアの方から野菜をもらう他はコロナ感染予防のために自粛している。以前から管理者が機会を見つけて認知症について講話会等を行っていたため、入居についての問い合わせは現在も受けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	以前は体験学習の子供達の受け入れや隣接する病院での健康祭りに参加していたが、コロナ禍の影響で実施できていない	/	
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所での出来事など現状をありのままに報告し様々な意見を取り入れながらサービスの質の向上や改善に努めている	例年は市職員・地域包括支援センター・民生委員・事務長・看護師等が出席して2か月毎に運営推進会議を開催しているが、現在は書面での報告となっている。地区から離れて生活している家族が多いため、家族は参加できていない。ホームの状況・ヒヤリハット報告・身体拘束等について検討しているが、今後は家族を含めて情報の共有を図っていきたいと考えている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に参加して頂き現状報告も行っている。また鹿児島市からの相談員受け入れ、保護課との情報交換など相互の協力関係を築いている</p>	<p>市役所支所の窓口でホームの運営に関する相談等を行い、電話やファックス等でも助言・指導を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。生活保護や後見人制度の利用者もあり、福祉事務所や社協との連携も図っている。市主催の研修会はリモートで参加し、ミーティングや勉強会等を通して職員間で共有するように努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>代表者及び全ての職員が、三カ月に一回、身体拘束適正化委員会に参加し日頃の勤務の中で身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>指針の整備を行い、管理者・職員・医師・看護師・機能訓練指導員等が出席して身体拘束適正化委員会を3か月毎に開催している。議事録は職員全員が閲覧して押印し、ホームでの研修会も年4回開催して認識を深めている。玄関の施錠は夜間のみとし、散歩に同行する等の工夫により安定を図り、利用者のペースで自由に暮らせる支援に取り組んでいる。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>管理者や全ての職員は、虐待防止の勉強会で学び、知識を共有し、お互いに虐待を見過ごす事がないよう、注意をはらい防止に努めている</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見人制度についての勉強会に参加したり、実際に後見人制度を利用している現状がある</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時は、契約書や重要事項説明書をもとに十分な説明を行い理解・同意をいただいている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	現在コロナ禍で運営推進会議が開催できず、文書での報告となっている	運営に関する意見や要望等については、利用者からは日頃のケアを通して、家族からは利用料支払いのための来訪・面会・LINE通話等を通して把握するように努めている。自分の思いを表現できない利用者に対しては自己決定できるように促し、得られた情報はミーティング・申し送り・介護日誌等で共有して、具体的にケアへ反映できるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングで、職員の意見、提案等の機会が設けられている	管理者は職員と普段から何でも話せる雰囲気作りに努め、年2回は個人面談も実施し、業務に関するだけでなく様々な相談を受けている。地元の職員が多いため離職率も低く、希望休や勤務交代、研修受講等の費用助成など柔軟に対応し、働きやすい職場環境の整備に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年二回、勤務評価の時間を設け管理者の評価と個々の職員の評価を照らし合わせ、話し合いの機会をもち、職員が向上心を持って働ける環境を作っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修等は実行され、分からない時はその時々で機会を設け行っている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>コロナ禍でなかなかできないが、病院内での発表をオンラインで主張している</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人の意見、要望を伺いながら、本人様と少しずつ寄り添い、耳を傾けながら、関係を作っていく</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>自分の意志を表現できない方等は、ご家族等に要望を伺い聞き入れるよう努める</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期対応時にご家族の要望を聞き、安心、納得のいくサービスを検討している</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>職員と入居者様で洗濯物たたみや、茶碗洗いやもやしの根取り、つわ剥き等の家事を一緒に取り組み暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナで家族会も実施できず、面会時に、近況報告をする等関係を築いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍での接触は厳しいため、ドライブ等の外出時に、出身地域を見学できるようにしている	家族との面会はガラス越しに電話を使用して実施しており、遠方からの来訪者にも個別的に判断して可能な限り対応できるように努めている。理美容は現在は職員が対応し、電話や手紙の取り次ぎ・ドライブ時に自宅付近を通るなど、これまでの関係性が継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	他の入居者様とも関わり食事、レクリレーション憩いの場を設け、笑顔のある生活を過ごしてもらっている		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で退去になったその後の状況をご家族に電話で尋ねたりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人希望で、居室内にラジオを置いたりして家庭的な環境作りに努めている	利用者の思いや意向は、日頃の会話・表情・仕草等で把握しているが、うまく伝えられない利用者の場合は家族・前施設等からの情報も参考にして利用者の視点から考え、職員間でも思いを共有して検討し、本人の思いに寄り添った個別支援となるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	なるべく家族等の会話の中で話を聞くよう努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録等に一日の様子を記録し、スタッフ全員が把握できるようにしている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月二回のケア検討会での話し合いを通じて入居者様へよりよいケアサービスの提供が実施できるよう努めている	月2回のケースカンファレンス、6か月毎のモニタリング等を通して職員間で検討し、利用者の思いや希望に沿った介護計画を年1回作成している。利用者のできることに着目して状況を十分に把握し、心身の状態変化に合わせて計画を見直し、特に入居時には振り返りを行いながら利用者主体の計画となるように取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の個別記録を基に月二回検討会を実施。検討会の日に入居者様一人をピックアップし、検討したい項目、内容、結論を出し、今後の課題としてスタッフ内で周知し、ケアプランに活かす</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>週一回の健康チェックを行っている看護師や隣接する病院の薬剤師や栄養士、理学療法士など多方面と意見交換を行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行政・包括支援センター居宅支援事業所などと日常的に情報交換を行っている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>病院の敷地内に施設がある為、医師との連絡を取りながら、受診をして必要であれば中央病院で検査をしている。専門病院の受診が必要な時は家族の方と一緒に行ってもらっている</p>	<p>利用者の元々のかかりつけ医である母体医療機関が主治医となり、毎月受診している。整形外科等は中央病院からホームへ往診に来訪され、毎月の訪問歯科診療や毎週看護師による健康管理も行われている。他科受診は家族の協力をいただき、夜間は24時間連携体制が構築されている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	週に一回の看護師による健康チェックが実施され、一人一人の入居者様のバイタルチェックを行ってもらっている		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	病院が隣接しているため、入退院する場合、病院関係者との情報交換などを行い、早期に対応できるようにしています		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	ご家族との話し合いを基に、方針を決め、スタッフ間で共有を行っている	母体医療機関の指針を基に重度化・終末期対応と看取りの指針を作成し、事前確認書・終末期ケアについての同意書と共に入居時に説明して同意を得ている。現在看取りの事例はないが経験はあり、希望があれば対応は可能である。近年は職員研修等を実施していないため、今後は実施して職員のスキルアップや不安の軽減に努めていきたいと考えている。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	いろいろな事態を想定した勉強会を各部署に協力してもらい定期的に開催している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>日中、夜間想定で年二回、防災訓練を実施。共用スペース内に（非常災害時の避難経路）（火災発生時の避難、誘導の注意点）を提示。鹿児島市主催の桜島火災爆発総合防災訓練への参加</p>	<p>「防災マニュアル」の中に「非常災害対策マニュアル」が整備され、火災・地震・風水害に対する避難訓練を消防分遣隊の協力をもらい実施している。現在地域の協力はもらえないが、桜島大規模避難訓練等にも参加し、火山爆発時の避難体制や避難先が確定され、地域との協力体制が構築されている。自動通報装置・スプリンクラー・防火カーテンが設置され、職員への連絡は電話・LINEで行われる。ユニット毎に事務所に水・カンパン・缶詰等が備蓄され、食品は母体医療機関で保管されている。ヘルメット・懐中電灯・雨具等も準備し、防寒シート・薬等は非常持ち出し袋に入れて備えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務優先で、時々言葉が荒くなってしまうことがある	「高齢者権利擁護の手引き」「個人情報保護方針」を作成し、ロールプレイを行ったり母体医療機関での研修会に出席して職員間でも意識共有を図っている。特に排泄の誘導では小さな声で話しかけ、プライバシーに十分配慮した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人希望に応じ、昼寝や入浴など自己決定できるようにしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	定められた日常のスタイルはあるが、その時々でご本人様優先して過ごして頂くようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整容面では毎週日曜日に、爪の確認をし爪切りを実施。男性の方は入浴日を中心に、髭剃りを行っている。洋服はできるだけその日の好みに合わせられるように心掛けている		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の好みに合わせ、食事の準備をして、台拭きをして食器類の下膳をしてもらっている	菜園で収穫した野菜や地域・家族からの差し入れの食材を使い、職員が献立を作成して利用者の状態に合わせて刻み等の食事形態で提供している。利用者は下ごしらえ・食器洗い等できることを行っている。行事食は手作りで、敷地内での茶話会や花見弁当など、食事を楽しむ支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	食事と水分摂取状況が個別で一 目でわかるように表にしてあ る。飲みが悪いときは声かけを しながら甘い物を飲んでもらう		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の 力に応じた口腔ケアをしている	食後は声かけをして一人ででき る方はご自分でしてもらい、入 れ歯の場合はスタッフが一部介 助となる		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣 を活かして、トイレでの排泄や排泄の自 立に向けた支援を行っている	夜間ポータブル使用する方がい たり、昼間は本人の排泄パター ンを考え、トイレに行かない方 は誘導をしている	利用者毎の排泄パターンはバイタル チェック表で確認し、日中はできる だけトイレでの排泄を支援している。排 泄時の立位動作をスムーズに行うため に、母体医療機関の理学療法士の指導 を貰いながら生活機能向上訓練を実施 している。便秘の予防には水分・繊維 の多い食品・牛乳等の摂取を促し、腹 部マッサージも実施して薬に頼らない 支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、個々 に応じた予防に取り組んでいる	朝牛乳を飲んでもらい、必要に 応じて牛乳等を使った料理、シ チューやヨーグルト等を食べて もらい、午後からコーヒー牛乳 を飲んでもらうこともある		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	団体生活や限られたスタッフの数では、なかなか対応しづらい面がある	週3回、午後に個浴で入浴を実施しており、利用者の状況により清拭・足浴等も含めて随時対応が可能である。入浴剤を使い、シャンプー等は共用・個人用共に可能である。入浴後には保湿剤でのケア、アルカリ飲料・お茶・ジュース等で水分補給を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人のその時々状況に応じて、居室にて休憩したり、ソファで休んだりしてもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個々の日誌に添付し注意事項や副作用等についても理解できるようにしており、服薬の確認にも努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の性格や好みを考え、声のかけ方、レクリエーションの楽しみ方を変えている		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍では外出することが制限されているため、日常的な外出を提供することが難しい現状	現在はコロナ感染予防のために外出は自粛しているが、敷地内の散歩を楽しんだり、庭先で日光浴・花を眺める・歌を歌う等を行ったり、ドタイプ花見や自宅周辺までドライブして気分転換を図っている。ホームに留まる時間が長くなり、レクリエーションや居室で個別運動を行ったり、長時間利用者とは話す機会が増えてきている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ホームにて、本人のお金は預かっているが、本人の希望があればAコープ等から、職員が希望の品物を買って来て差し上げている</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>現在は直接面会ができない状況ではあるが、窓越し面会をし電話を利用して家族との会話を楽しんでいる。入居者様が直接手紙を書くことはないが月一回広報誌の中で担当スタッフが近況報告を行っている</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>広報委員会が季節や行事に応じた展示物を作成しており、それを見て季節を感じ楽しんでいる</p>	<p>広いホールは収納が多く整理整頓され、壁には季節の飾り・絵画・書道の書き初め・写真等が掲示され、食事だけでなくレクリエーションを行うスペースとしても十分な広さである。職員が持参したりホームの花壇に植えてある季節の花が活けられ、対面式キッチンでは調理の匂いや音が伝わり、家庭的な空間となっている。空気清浄機を設置し、換気も十分に行われ、感染予防に努めている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング内で過ごす中で、その時の気分にあった場所（和室）に案内して気の合う人同士お話しできる空間を作っている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、自宅より持ってきた写真や衣類、布団などの使いたれた物を置いており、心地よく過せるようにしている</p>	<p>居室は洋室フローリングの腰高窓で、エアコン・ベッド・タンス・洋服掛けが備えられている。利用者は馴染みの布団・箸・湯のみ・位牌・ラジオ・化粧箱・色紙・写真等を自由に持ち込み、落ち着いて憩える暮らしとなるような支援に努めている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>バリアフリーで入居者様が安心して移動できるよう環境作りに努めている</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない